藤林武史氏講演会

子ども中心の社会的養育の在り方について考える
～新しい社会的養育ビジョンと福岡市の取組み～

2019年1月20日(日)
10:00~14:00　（開場午前９時４０分から）

和歌山市中央コミュニティセンター３階【多目的ホール大】

和歌山市三沢町１丁目２番地　／　TEL　０７３－４０２－２６７８

お昼は意見交換する場を設けています。ご希望の方は昼食をご用意下さい。

講師：藤林　武史　氏

精神科医師。福岡市こども総合相談センター（福岡市児童相談所）所長。日本子ども虐待防止学会理事、日本トラウマティックストレス学会理事、社会保障審議会新たな子ども家庭福祉のあり方に関する専門委員会委員、新たな社会的養育の在り方に関する検討会構成員でもある。

著書に『地域保健におけるひきこもりへの対応ガイドライン』じほう2004（共著）、『大災害と子どものストレス』誠信書房2011（共著）、『国連子どもの代替養育に関するガイドライン』福村出版2011（共著）、『講座子ども虐待への新たなケア』学研教育出版／学研マーケティング2013（共著）、『児童相談所改革と協働の道のり』明石書店2017（編著）がある。

申し込み
問い合わせ

主催：県子ども・女性・障害者相談センター
MAIL:tokawa_m0001@pref.wakayama.lg.jp

２０１９年1月１５日（火）１７：００まで

※会場の収容人数の都合上、定員を制限させていただく場合がございます。

主催者の思い

　平成２９年８月２日、「新しい社会的養育ビジョン」（以下「ビジョン」といいます。）がとりまとめられました。このビジョンは、すべての子ども家庭を支援するために、子どもの権利保障を中心に据え、社会的養育の在り方を再構成するものです。ビジョンに対しては、「数値目標ありき」などの強い批判が加えられていますが、少なくとも、すべての子ども家庭に対する支援を充実させるために何をどうすればよいのか、子どもを中心とした社会的養育とはどのようなものなのか、どうやって子どもの権利保障を中心とした社会的養育の在り方に転換していくのか、という議論のたたき台として機能していることに異論はないでしょう。

　これまでも子どもの権利保障は大切だと誰もが思ってきましたが、それが有する抽象的概念のためか、あるいは子どもの声を拾う力が足りないためか、大人が後見的な立場からレールを敷いてきたということを我々は真剣に反省しなければなりません。そして、そこに子どもや家庭の生の声が十分に反映されてきたのか、子どもや家庭と協働して社会的養育を実践してきたのかを真摯に振り返ってみなければなりません。これは既存のサービスや施設等への批判という観点からではなく、本来、子どもや家庭にとってどのような支援を提供することが、真に子どもの育ちを保障することにつながるのかという観点から理解される必要があります。

　今回の講演はその第一歩です。ビジョンがまとめられた背景に何があるのか、ビジョンの行間に込められた構成員の思いはどのようなものか、子どもの権利保障を中心とした社会的養育の在り方とはどのようなものなのか、今回の講演によってその一端が明らかになり、ビジョンに対する単なる批判では無く、建設的な議論ができるための素地ができあがれば、和歌山県の子どもたちはもちろん、日本中の子どもたちにとってこれほど有益なことはありません。

　本講演では、お昼ご飯を食べながら意見交換できる場を設けています。和歌山県でどのような社会的養育を実践できるのか、講師を交えて皆で話し合いたいと思っています。